

1. 発足から現在まで

「医学教育ユニット」とは、医学医療教育用語辞典¹⁾によると“医学教育機関レベルで、その機関の医学教育のセンター的役割を果たす組織の総称である。(中略)日本では順天堂大学の医学教育研究室(1972年)に始まり、かなり年月を経て東京女子医大に同講座(1995年)が設置された。名称は医学教育学室、医学教育計画室等まちまちであるが(後略)”とある。2002年に実施されたアンケート調査では専属の医学教育部門(いわゆるユニット)は20大学を数えている^{2,3)}。

一方、このようなユニット機関に所属する教員を主体とした集まりを本邦では「ユニットの会」と称している。日本医学教育学会広報・情報基盤委員会が構築している医学教育情報館“MEAL”では「ユニットの会」を“医学教育の全般的な改革に伴い、講座単位から医学部全体で協調的、統合的に取り組む教育の時代に入った。このような高度の医学教育体制の構築に専門職的な教員が日本各地の医学部に誕生し、さらにこれらの教員の所属部署(いわゆるユニット)も設置された。その初期の頃の教員は新しい分野への取り組みに戸惑うことも多かったため、情報の交換を求めて自然発生的に“集まり”がもたれる事となった。”と記載している。この発足の経緯等は医学教育白書2010年版⁴⁾ならびに「医学教育ユニットの会」webページ⁵⁾を参照されたい。

図1に1999年(第1回ユニットの集いが持たれた年)から現在までの「医学教育ユニットの会」の会員数(メーリングリスト登録者・ユニッ

ト機関外会員を含む)、ユニット機関数、会員所属大学数を示した。いずれも右肩上がりに増加しているが、特に会員数の増加は顕著である。また最近ユニット機関数が参加大学数をかなり上回ってきたが、これは1大学に2つ以上のユニット機関が存在すること、すなわちかつては卒前医学教育に関わるセンター・講座等のユニット機関が1大学に1つ存在することが多かったが、最近はこれに加え、卒後教育に関わる臨床研修センター、地域医療センターなどの組織が多く加入するようになったためである。ユニット機関名簿は紙面の都合でここには掲載できないが、ユニットの会webページから閲覧可能であり⁶⁾、現在70大学に130のユニット機関が登録されている。なお、毎年4月時点の名簿にメールアドレスを加え、医学教育誌に掲載している⁷⁾。医学教育ユニット機関名簿はあくまでも申告制であり、ここに掲載されていないユニット機関があれば、是非MEDC⁸⁾までご連絡頂きたい。

2. 活動状況と今後の展望

「医学教育ユニットの会」申し合わせ事項^{4,5)}に“3. 本会の目的は、医学教育専門部局の教員間の情報・経験交流を基本とする。4. 本会の活動は主にインターネット上のメーリングリストにおいて行い、年に一度、日本医学教育学会大会に合わせて集まりを持つものとする。”と謳われているように、ユニットの会の主な活動はメーリングリストでの情報交換・意見交換と、年に一度の顔合わせの会合を持つことである。

表1に過去に開催されたユニットの会の集まりを記した。当初は日本医学教育学会大会の前日に、近年は期間中の懇親会後に催され、開催会場は大会主管校のお世話になっている。会合内容は各ユニットの活動報告・意見交換などで、希望があればアンケート調査を実施したこともある。最

^{*1} Medical Education Units in Japanese Medical Schools

^{*2} Masayuki Niwa 岐阜大学医学部医学教育開発研究センター

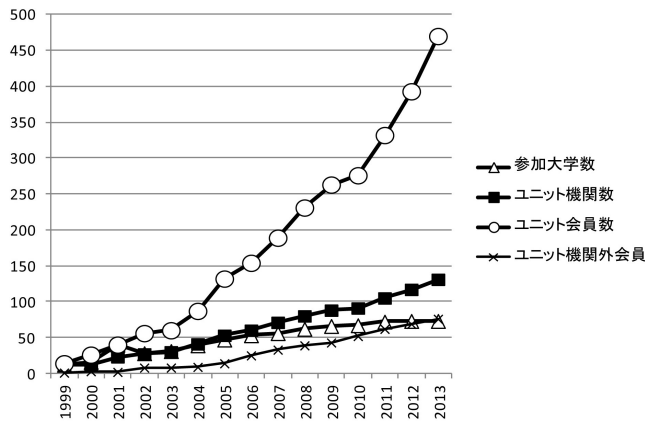


図1 ユニット会員、ユニット機関、参加大学数の変動

表1 過去に開催された医学教育ユニットの会合一覧

ユニットの会	開催日	大会主管校	世話係	参加人数	備考
第1回	1999.7.28 (木)	武蔵野赤十字病院	畑尾正彦、大会主管校	16	「医学教育ユニットの集い」として発足
第2回	2000.7.25 (火)	東北大学	後藤英司、大会主管校	18	
第3回	2001.7.26 (木)	東海大学	後藤英司、大会主管校	21	
第4回	2002.7.26 (金)	昭和大学	宇宿功市郎、大会主管校	25	「医学教育ユニットの集い」設立ユニットの回 ML 立ち上げ
第5回	2003.7.24 (木)	佐賀医大	以降、大会主管校 + MEDC	40	
第6回	2004.7.29 (木)	高知医大		36	
第7回	2005.7.29 (金)	東京大学		40	
第8回	2006.7.29 (土)	奈良県立医大		40	
第9回	2007.7.27 (金)	岩手医大		40	
第10回	2008.7.25 (金)	東京医大		49	
第11回	2009.7.24 (金)	近畿大学		50	
第12回	2010.7.30 (金)	日本医大		53	
第13回	2011.7.22 (金)	広島大学		46	
第14回	2012.7.27 (金)	慶應義塾大学		53	
第15回	2013.7.26 (金)	千葉大学		68	

表2 ユニットの会メーリングリストにおいて2013年度に実施されたアンケート調査一覧

13年実施アンケート
● 白衣式に関して ● 臨床実習終了後の OSCE について ● 地域枠学生のキャリアに関する質問、お伺い ● 医学教育における心身医学教育について ● 教育医長について ● 専門医養成に関する大学教育部門の役目について

近はユニット機関の増加により時間不足となりがちであったことから、今年は活動報告を新規会員の簡単な自己紹介のみとし、現在のトピックスの一つである“国際認証に向けての取り組み”に話題をしぼり、パネラーも交えて活発な情報交換を行った。参加者も過去最高の68名であった。今後のユニットの会の集まりの一つの方向性を示すものであろう。

ユニットの会メーリングリストではセミナー、ワークショップなどの開催案内・情報共有の他、アンケートも数多く実施されている。表2に今年度実施されたアンケートのリストを記す。このアンケート結果を共有し、貴重な情報源として活用できることもユニットの会の存在意義と考えられる。

図1に示したように、ユニット機関に所属する教員は飛躍的に増加し、500名に迫る勢いである。最新名簿⁶⁾によればこの内訳は専任278名、併任215名となるが、重要なことは如何にアクティブにユニット機関の仕事に携わっているかであり、今後は数のみならず、その質も問われてくることになろう。一方で、ユニット機関が誕生し

たことから懸念されていることではあるが、学内の教育に関する仕事がかつてならばユニット機関に押しつけられるきらいもなくはない。ユニット機関を核にして学内全体の教育への関心を更に高めていくことが肝要であろう。

■文 献

- 1) 日本医学教育学会医学医療教育用語辞典編集委員会編, 医学医療教育用語辞典 p.274, 照林社, 2003年.
- 2) 大野良三. 教育機関内の教育開発組織, 医学教育白書 2002年版, p.84-8, 篠原出版新社.
- 3) 丹羽雅之, 高橋優三, 大西弘高. 医学教育部門・医学教育開発研究センターの役割. 現代医療 2002; **34**: 1532-8.
- 4) 鈴木康之. 医学教育ユニットの会, 医学教育白書 2010年版, p.123-5, 篠原出版新社.
- 5) <http://www1.gifu-u.ac.jp/~medc/unit/unit.htm>.
- 6) <http://www1.gifu-u.ac.jp/~medc/unit/meibo.htm>.
- 7) 医学教育ユニット機関名簿. 医学教育 2013; **44**: 198-208.
- 8) <http://www1.gifu-u.ac.jp/~medc/>